

県女第一期生より、皆実高校生に至る七拾三年の歴史に連なる者。また今後、この同じ流に連なる者、手をつなぎ足音高く歩もう。足音高く声を揃えて元気に歩もう。我等は、皆実有朋会員である。歩もう、歩もう力強く。

皆実有朋

発行所
広島市出汐町
広島皆実高等学校内
社団法人
皆実有朋会
TEL54-1290
印刷所
四反田印刷株式会社
鞆町電62024・5107



第210回 有朋同窓会

盛大に開かる

同窓会館の落成、母校の七十周年記念、相次ぐ皆実有朋会の新しい歩みの中で、過ぐる昭和48年11月4日(日)、第20回総会が、昭和49年11月3日(日)、文化の日を迎えて、第21回定期総会が

それぞれ開催されました。会は終始なごやかに進められ、老いも若きも有朋の集いを囲み、新たな発展を構築しながら、幕を閉じました。

皆実有朋同窓生並びに同窓会に親身されるご協力をいただいた皆様、ようやく皆実有朋同窓会館設立資金完済の報告ができる運びとなり、喜に堪えません。

思えば八年前、昭和四十一年冬広島市内紙屋町の日立ファミリセンターで初めて同窓会館設立準備委員会を置いてより

皆実有朋同窓会館設立資金

借入金完済にあたって

の皆様はもとより、皆実有朋の恩師やご父兄の皆様、そして同窓生の皆様の絶大な厚意が総額約一千九百万余円として結集し、昭和四十六年母校の一隅に皆実有朋会館を実現させたのであります。

おりました現在に到っても、なお着工できない状態にあります。と、実際の頃はほんごころいっようなか途方にくれた事もありました。しかし、それらの苦しみはただ一点……そこに集り、過ぎし日の青春を語り、その情熱を再び我が生活の糧とするために、ま

にこの会館が各方面から積極的に活用され、母校と同窓会の一層の発展をもたらしますよう祈念する次第です。尚これをもちまして同窓会館設立準備委員会を開設致します。

我が同窓会にとって、それは長い、苦しい取り組みでもありました。初めはほとんど集まっておりました寄付も中途で断切れ勝とな

間、これではいけなと福屋の食堂を午後八時より借りて委員会を営んだり、PTAの会費様並に先生方のご協力もいただいたり、再度御寄付の趣意書を作って会員にお願いしたり、その一節をあげて見ますと、「あの日以来、一年と六ヶ月がすぎました。長い

熊田久彌 理事長
竹内泰彦 副理事長
中川千代 同窓会館設立準備委員一同

同窓会館建設資金収支決算書

(自昭和42年7月28日～至昭和49年5月8日)

収入の部		
科	目	金額
寄受	付利息	17,807,386
取利	入	848,847
雑収	入	614,195
銀行借入		3,000,000
計		22,270,428
支出の部		
科	目	金額
設計管理費		852,500
建築工事費		15,643,000
追加(テラス)工事費		605,000
備品費		811,721
学校寄贈(体育館いす)		255,000
振込手数料		69,280
会議費		53,330
開館式費及び記念品費		205,800
通信費及び事務費		381,906
借入利息		278,729
借入返済金		3,000,000
修理費		2,750
基金繰り入れ		111,412
計		22,270,428

名簿、会費の振込及び立替金等はのぞく。

同上払出はのぞく。